（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

# 令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---|---|
| 事業名 | 地域の魅力発見によるインバウンドに対応した広域観光プロモーション事業 |
| 事業主体<br>（連絡先） | 松本広域連合<br>（0263-87-5460） |
| 事業区分 | ⑹ア特色ある観光地づくり<br>⑻その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | ７，０７１，４８４　円（うち支援金：　５，０００，０００円） |

## 事 業 内 容

観光需要が高まっている訪日外国人旅行客の、松本広域エリアの「旅マエ」における認知度向上を図るため、事業を実施しました。

１　地元大学との連携による地域の魅力再発見及び周遊モデルコースの作成
⑴Instagram 投稿記事の作成
⑵周遊モデルコースの作成
２　広域観光プロモーション
⑴外国語ガイドマップの作成
⑵継続的なウェブ広告の発信
３　観光 DMP の構築
観光データ分析プラットフォームの構築

【　授業風景　】

【　学生協働による SNS 記事　】

【　観光 DMP ダッシュボード　】

## 事 業 効 果

１　信州大学グローバル化推進センターの国内学生・留学生のグループによるグループワークで、インスタグラム記事および周遊モデルコースを作成。
約８割が県外・国外出身の学生であり、新たな視点による松本エリアの魅力を再発見することができたとともに、学生の地域への理解度が深まり、将来の地域人材の育成にもつながった。

２　国内学生・留学生のグループによる外国語ガイドマップの見直しを行ったことで、「外国人」「若者」としての目線でガイドマップの修正ができ、より旅行者の手に取りやすいものとなった。
また、海外に向けたウェブ広告を行うことで、投稿に海外から多くのリアクションがあり、松本広域エリアの海外における認知度向上を図ることができた。

３　観光データマネジメントプラットフォーム（DMP）の構築により、松本広域エリアのインバウンドにおける現状が可視化され、魅力的な

**【目標・ねらい】**

①松本広域エリアの認知度向上
②地域大学との協働による地域人材の育成
③松本広域エリアの回遊性向上による「持続可能な観光地域づくり」の実現

※自己評価【　B　】

【理由】
地域大学との協働により、インバウンドに対応したSNS投稿やガイドマップを作成でき、認知度向上に一定の成果が出ていると認識しています。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

周遊モデルコースの作成に有用であった。

## 今後の取り組み

引き続き、地域大学と協働しながら、「若者」「外国人」目線でのプロモーションを実施します。

観光ＤＭＰを活用しながら、松本広域エリアの課題と強いを整理することで、「旅マエ」のみならず「旅ナカ」におけるプロモーションにも尽力をし、アルピコホールディングス㈱を加えた産官学連携による「売れる観光プラン」の造成を行うなど、認知度向上を図るとともに、松本エリア内での回遊性の向上に取り組み、地域における観光消費額の増加、ひいては「持続可能な観光地域づくり」の造成を目指します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある